

臨地実習（プライマリ・ケアNP）

[実習] 前後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》○塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
 石角 鈴華 [ishizumi-re@hoku-iryo-u.ac.jp]
 山田 拓 [yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]
 高橋 伸彦（歯） [ntkhs@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

本科目では、ナース・プラクティショナーの役割を明確し、プライマリ・ケアの場面で必要な特定行為においてシミュレーションを用いた実習を行う。合わせて、講義・演習で学習した知識・技術を基に、地域医療の臨地実習を行う。

【学修目標】

1. プライマリ・ケア分野におけるナース・プラクティショナーの役割を実習を通じて明確にする
2. プライマリ・ケアの場面を想定し、必要な特定行為においてシミュレーションを用いて、各行為の到達目標に届くように実習（学内実習を含む）を行う。
3. 訪問看護ステーションにて実践しているNPの指導の下で、多職種連携についての実習を行う

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	1. 実習課題	既習の講義・演習、及び自身の実務経験に基づいて実習課題を明確にする。	塚本・石角・山田
	2. 実習方法	<p>臨地実習に関して、以下の方法で行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生は実習課題を明確にした上で実習計画書を作成する 2) 実習計画書をもとに実習施設側の指導者と打ち合わせを行い、実習目標および倫理的配慮について確認する 3) 終了後は、指導教員とともに実践の振り返りを行い、課題レポートを作成する <p>実習目標1, 2に関しては、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プライマリ・ケア分野におけるナース・プラクティショナーの役割を実習を通じて明確にする 2. プライマリ・ケアの場面を想定し、必要な特定行為においてシミュレーションを用いて、各行為の到達目標に届くように実習（学内実習を含む）を行う。 <p>以下、本科目とする学内にて実習を行う行為を下記に挙げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創傷管理関連 ・動脈血液ガス分析関連 ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連 ・循環動態に係る薬剤投与関連 ・精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 ・皮膚損傷に係る薬剤投与関連 	塚本・石角・山田 高橋（伸） 山本 匡（特別講師） 平島弘美（特別講師） 鶴飼 涉（特別講師） 高水勝（特別講師） 加藤 瞳（特別講師）
	3. 実習のレポート	<p>実習の内容は、実習目標到達を目指して以下の項目に焦点をおいて実施し、最低3例のケースレポートを作成し、提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論等を用いて、患者の置かれている状況を統合的に理解する（これに関連して、ケースレポート1事例提出） 2) 患者の身体的状況を医療面接・身体診察を行いながら、アセスメントする（これに関連して、ケースレポート1事例提出） 	塚本・石角・山田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		3) 患者の心理・社会的状況を患者への医療面接を行いながら、アセスメントする(これに関連して、ケースレポート1事例提出)	
	3. 実習場所	【実習場所】 特定行為の演習においては、学内でシミュレーター等を用いて行う 訪問看護ステーション(詳細は学生と相談しながら決定)	塚本・石角・山田
	4. 実習期間	臨地実習日程は課題達成状況と施設の状況により適宜検討するが、期間は1週間から2週間とする。 その他、学内においては、指定された日時で行う	塚本・石角・山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

特定行為研修の区分別の行為に関しては、筆記試験80%、実技試験20%

臨地実習に関しては、別途示す実習評価表に基づき評価を実施する

【学修の準備】

自身の実習課題を明確にした上で、実習計画を立てて臨地実習に臨む
アセスメントに必要な、概念枠組みについて事前に学習しておく